

平成24年11月9日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人  
アジア日本相互交流センター  
代表理事 田口 京子

### NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

#### 記

1. 企画名：ワールド・コラボ・フェスタ2012（愛知開催）  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 出張者氏名：特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター 川村俊子、吉田文  
特定非営利活動法人名古屋NGOセンター 村山佳江、門田一美
3. 依頼元：ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会  
（財団法人愛知県国際交流協会、財団法人名古屋国際センター、独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター、名古屋国際交流団体協議会）
4. 催しの概況：
  - 1) 実施日：2012年10月27日（土）・28日（日）10：00～16：00
  - 2) 場所：久屋大通公園「もちの木広場」（愛知県名古屋市中区錦3）
  - 3) 相談者数：大学生やNGOでボランティアをしている社会人等から96件
  - 4) 実施内容：中部地域最大の国際交流イベント「ワールド・コラボ・フェスタ2012」において、アジア日本相互交流センター・ICANと名古屋NGOセンターの2団体で、相談対応サービスを実施した。
5. 所感及び効果等  
アジア日本相互交流センターは、主にNGOへの就職相談やNGO職員になるために求められるスキルに関する相談、名古屋NGOセンターは、主に地域イベント情報の紹介やボランティアの募集方法に関する相談に応じた。概して、一般的な外国事情よりも、具体的な行動に対する相談が多く寄せられた。行動したい気持ちは持っていても直接団体に訪問し、問い合わせをするのは気が引けると感じている多くの方へ、出張相談業務を通じて、NGO活動への参加のきっかけを作ることができた。



【アジア日本相互交流センター相談員川村】



【名古屋NGOセンター相談員門田】

平成 24 年 11 月 10 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

### NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

#### 記

1. 企画名: JICA ボランティア募集説明会での相談対応
2. 出張者氏名: 島村昌浩(広報・収益事業担当)
3. 依頼元 : (独法)国際協力機構
4. 実施日時: 24 年 10 月 10 日(水)15 時 00 分~21 時 30 分(うち休憩時間 30 分)
5. 実施場所: 大宮ソニックシティホール (埼玉県大宮市)
6. 実施内容と効果・所感:
  - (1) 実施内容: シニアボランティア (SV)・青年海外協力隊 (JV) の募集についての説明会に参加し、NGO 相談員として国際協力分野での就職相談を中心として来場者の質問・相談に対応した。参加者数は JV 約 60 名 SV 約 30 名に対して対応 12 件。
  - (2) 効果・所感: 今回 JOCV 出身者である当該職員を出張者としてあてたところ、自身の JOCV 後のキャリアも含め経験に基づいた助言を示すことが出来た。
7. 主な対応内容:
  - ◆ 退職後の現在、シニア・ボランティアも含めて、国際協力に関わる道を探っている。情報収集のため説明会に参加した。フィリピンに 20 年間駐在経験があり、専門分野は電機関係。  
⇒ 専門分野を活かしたいと考えているのであれば、シニア・ボランティアはマッチする。地域性を活かしたいのであれば、フィリピンを活動地域とする NGO にボランティアとして関わることも考えられる。地域や専門性にこだわらないのであれば、JVC も含めてボランティアのマンパワーを期待している NGO は多々ある。
  
  - ◆ 学校教員の相談者からシニア・ボランティア派遣可能性について、経歴に応じたアドバイスを求められた。  
⇒ JICA ボランティアは、職種によって競争率も異なり、難易度に差があることを説明した。相談者は教諭であるが、日本語教師を希望していた。日本語教師の職種は供給過多に近い状況の上、国内の小学校教員経験よりも、日本語学校などでの経験や日本語教師の資格が重視されることを説明し、これまでの経験を活かすのであれば、教員養成学校での小学校教諭育成に注目した方が、合格の可能

性が上がるのではないかとアドバイスした。

◆ 企業の CSR 担当者が情報収集のために説明会会場を訪問。CSR 部門を立ち上げたばかり(会員は現在 1,000 名あまり)とのことで、どの様に社員と国際協力を結び付けていけるかについて相談された。

⇒ 他の企業の CSR 活動を具体的に紹介するとともに、JVC との連携の可能性を提示。JVC 以外とのマッチングが希望の場合は、ネットワーク組織である JANIC にコンタクトを取ってみてはどうかとアドバイスした。JVC 国際協力カレンダーの紹介、ボランティア参加の呼びかけを社員向けに行う予定。その他、NGO 相談員制度を使って行使を招聘し、勉強会を開催する予定とのこと。

◆ 将来、開発分野で仕事をしたいという社会人。開発分野の大学院への進学を考えているが、協力隊参加前に進学するか、参加後に進学するか迷っている。また、地域開発の分野に興味があるが、どこの大学院を目指すのがよいのかを相談したいとのことだった。

⇒ 協力隊参加のタイミングに関しては、それぞれのメリットとデメリットを説明した。大学院の選択は最終的には本人による情報収集が必要とした前提で、イギリス、オランダ、シンガポール、オーストラリア、日本の大学院を案内した。

以上

## 当日写真



平成 24 年 11 月 10 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：JICA ボランティア募集説明会での相談対応
2. 出張者氏名：広瀬哲子（広報・渉外担当）
3. 依頼元：（独法）国際協力機構
4. 実施日時：24 年 10 月 13 日（土）10 時 30 分～16 時 30 分（うち休憩時間 1 時間）
5. 実施場所：山梨県立国際交流センター（山梨県甲府市）
6. 実施内容と効果・所感：
  - （1）実施内容：シニアボランティア（SV）・青年海外協力隊（JV）の募集についての説明会に参加し、NGO 相談員として国際協力分野での就職相談を中心として来場者の質問・相談に対応した。参加者数は SV5 名の参加に対し、対応は 3 名、JV は 25 名参加に対し、対応は 10 名。  
参加人数が少なかったため、出張者も JOCV 卒業生の一人としてセミナーの後の「座談会」に入り、参加者と懇談した。
  - （2）効果・所感：今回 JOCV 出身者である当該職員を出張者としてあてたところ、自身の JOCV 後のキャリアも含め経験に基づいた助言を示すことが出来た。
  - （3）主な対応内容：
    - ◆ 現地はどこでも英語力は必要なのか。  
⇒ ある程度の英語力は求められる。地域や活動によっては、現地語の必要性の方が高い場合も。
    - ◆ ラジオ・通信の技術を活かせるか。  
⇒ 被災地での災害FMの活動を紹介。
    - ◆ NGOで働くには何をしておくとういのか。  
⇒ 関連の勉強だけでなく、ボランティア等で活動に関わっておくことをアドバイス。
    - ◆ まだ漠然とした関心。何から始めたら？  
⇒ 居住地の県・市の国際交流イベントのボランティアなど身近な場に参加の機会があることを紹介。

以上

当日写真(参加者との座談会の様子)



平成 24 年 11 月 10 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

### NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

#### 記

1. 企画名: JICA ボランティア募集説明会での相談対応
2. 出張者氏名: 島村昌浩(広報・収益事業担当)
3. 依頼元 : (独法)国際協力機構
4. 実施日時: 24 年 10 月 13 日(土)15 時 30 分~21 時 00 分(うち休憩・移動時間 45 分)
5. 実施場所: とちぎ国際交流センター (栃木県宇都宮市)
6. 実施内容と効果・所感:
  7. 実施内容: シニアボランティア (SV)・青年海外協力隊 (JV) の募集についての説明会に参加し、NGO 相談員として来場者の質問・相談に対応した。参加者数は SV 約 8 名・JV 約 15 名に対し、対応は 6 件。
  8. 効果・所感: 今回 JOCV 出身者である当該職員を出張者としてあてたところ、自身の JOCV 後のキャリアも含め経験に基づいた助言を示すことが出来た。
  9. 主な対応内容:
    - ◆ 帰国直後の JICA ボランティア。現在は居住地の国際交流協会にボランティアとして関わっている。国内でのボランティア活動や JVC の活動について知りたい。  
⇒ JVC の海外ならびに国内での活動を紹介すると同時に、JVC も含めた NGO でのボランティア活動を具体例を挙げて説明した。
    - ◆ 青年海外協力隊の任期を終え帰国した相談者。協力隊参加時は現職参加であったため、復職しているが、帰国後、国際協力分野に進みたいと思うようになり、今後の進路について相談したい。  
⇒ NGO でもシステム管理担当を必要としているので、JICA パートナーなどの求人情報をチェックすることを勧めた。本人は大学院への進学も視野に入れているとのことだったので、帰国隊員に優先枠を与えている宇都宮大学国際学部を紹介した。
    - ◆ 宇都宮で国際協力分野のキャリアセミナーを計画しているが、そのイベントへの講師招聘に NGO 相談員制度が使えるかという相談。  
⇒ NGO 相談員制度を利用しての講師派遣は可能なため、計画が具体化した段

階で再度ご連絡をいただきたい旨をお話しました。

以上

### 当日写真



平成 24 年 11 月 10 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

### NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

#### 記

1. 企画名：JICA ボランティア募集説明会での相談対応
2. 出張者氏名：平野将人(ラオス事業担当)
3. 依頼元：(独法)国際協力機構
4. 実施日時：24年 10月 16日(火)15時30分～21時00分
5. 実施場所：京北ホール(千葉県柏市)
6. 実施内容と効果・所感：
7. 実施内容：シニアボランティア(SV)・青年海外協力隊(JV)の募集についての説明会に参加し、NGO相談員として来場者の質問・相談に対応した。参加者数は20名程度。
8. 効果・所感：残念ながら、相談・質問は1件もなく終了。  
原因としては、初めて使用するホールということもあり、他のJICA/JOCA関係者がホール前方のステージの上に机とイスを並べて相談に応える中、ホール後方に位置したせいか相談に来る方がほとんどいなかったこと、また前半のシニアボランティアの説明会の際は「本日はNGO相談員もいるので、興味のある方はどうぞ」との案内だけだったため、後半の協力隊の部ではNGO相談員の説明を追加していただいた。
9. 主な対応内容：なし

以上

#### 当日写真



平成 24 年 11 月 10 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名: JICA ボランティア募集説明会での相談対応
2. 出張者氏名: 島村昌浩(広報・収益事業担当)
3. 依頼元 : (独法)国際協力機構
4. 実施日時: 24 年 10 月 21 日(日)10 時 30 分～18 時 30 分
5. 実施場所: 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」(新潟県新潟市)
6. 実施内容と効果・所感:
7. 実施内容: シニアボランティア (SV)・青年海外協力隊 (JV) の募集についての説明会に参加し、NGO 相談員として来場者の質問・相談に対応した。参加者数は 25 名程度、うち相談対応は 9 件。
8. 効果・所感: 今回 JOCV 出身者である当該職員を出張者としてあてたところ、自身の JOCV 後のキャリアも含め経験に基づいた助言を示すことが出来た。
9. 主な対応内容:
  - ◆ 高校生の息子を持つ親からの相談。息子に 2 週間ほどボランティア活動に従事させたい。通学する高校にはボランティア活動に参加する際の公欠制度がある。  
⇒ JVC で受け入れ可能、学校には要請書を送付する旨お伝えする。今後の段取りについての打ち合わせを行った。

以上

当日写真



平成 24 年 11 月 10 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター

### NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

#### 記

1. 企画名：「グローバルフェスタ JAPAN2012」での出張相談
2. 出張者氏名：（団体名五十音順）：8 団体  
（特活）アジア日本相互交流センター（ICAN） 井川定一  
（特活）AMDA 社会開発機構（AMDA Minds） 山上正道  
（特活）開発教育協会（DEAR）  
西あい（6日担当） / 八木亜紀子（7日担当）  
（特活）関西国際交流団体協議会（KNA） 真鍋瞳子  
（特活）国際協力 NGO センター（JANIC） 津島由美子  
（特活）国際ボランティアセンター山形（IVY） 安達三千代  
（特活）日本国際ボランティアセンター（JVC） 佐伯美苗  
（公財）PHD 協会（PHD） 井上理子
3. 主催等団体名：グローバルフェスタ JAPAN2012 実行委員会
4. 実施日時：平成 24 年 10 月 6 日（土）・7 日（日）  
各日 10 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所：日比谷公園（東京都千代田区）
6. 実施内容と効果・所感：  
今年度は「Think Global, Think Green：世界を変えよう。未来をつくろう」を開催テーマとして、10 月 6 日・7 日と開催された。  
両日とも NGO 相談員 8 団体による相談・質問コーナーを設置し、100 件余の来場者の個別相談に応じることが出来た。  
国際協力系のイベントとしては国内最大と評される本件イベントであるが、今回はたいへん変則的な実施であったためか、来場者数も例年より少なく感じられた。（ブースへの立ち寄り人数は少ないと感じた。）  
就職相談が多く、他地方からの学生からの相談もあったため、他地方の NGO 相談

員団体の参加によって情報の厚みが増したと思われる。

また、本件イベントに初参加の相談員団体もあり、対応方法やロジ面で今後地元のイベントでの相談員出張業務での参考になったとうかがっている。主な質問相談は別紙報告書式のとおり。

8. 交通費・宿泊費精算：各参加団体から請求のこと。

以上



写真上から、4 団体集合写真(左から PHD、JVC、KNA、JNC)、ブースの様子。写真中段は ICAN・PHD、また KNA。  
最下段は PHD、JNC。

## 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「インドネシアとネパールからの研修生から学ぶ、農村の生活と暮らしぶり」

※出張形態：講演

2. 出張者：今里拓哉（(公財)PHD協会職員）

3. 実施日：2012年10月20日（土）10:00～12:30

4. 場所：高砂市役所 西庁舎4階会議室  
（兵庫県高砂市荒井町千鳥 1-1-1）

5. 対象者：高砂市民

6. 実施報告：

「高砂に PHD 研修生を迎える会」からの講演依頼に応じ、「インドネシアとネパールからの研修生から学ぶ、農村の生活と暮らしぶり」という演題で講演を実施した。

インドネシア出身の研修生アドリザルとネパール出身の研修生アチャンマ・ラマの2名に同行してもらい、それぞれの農村の様子を垣間見ることが出来る写真を上映しながら、出張者である今里の方から研修生に写真についての質問を投げかける形式で講演は進められた。

参加者には、普段接することの少ないインドネシアとネパール出身の村の人から直接暮らしぶりを見聞きすることによって、その質素でありながら懸命に生きる姿勢から、日本での生活ぶりを振り返る機会を提供できたかと考える。また PHD 協会が目指す PHD 運動を紹介することにより、身近にできる国際協力について考えることができた。

参加者は主に高砂市や加古川市に住む約15名。

7. 添付画像：



講演の様子



講演後の質問応対



全体の様子

## 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「国際協力とボランティア」ミニフォーラム  
※出張形態：相談対応
2. 出張者：井上理子（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2012年10月12日（金）12：30～14：00
4. 場所：大阪経済大学B館 3階34教室（大阪市東淀川区）
5. 対象者：大阪経済大学 学生（約20名）
6. 実施報告：大阪経済大学が主催する「国際協力とボランティア」ミニフォーラムで国際協力についての話と相談対応を行った。大阪経済大学の学生を対象に国際協力に興味・関心を抱いてもらい、そこからボランティアとして関わる最初の一步を踏みだしやすいようにこちらから情報を提供し、行動へと促進した。当日は国際協力活動を行う5団体ほどが集まり、それぞれの活動紹介を通して国際協力についてのあり方について話をした。その後、学生から国際協力やボランティアについての個別相談をしボランティアとして関わりたい学生には参加できそうなボランティア等を紹介し、関心はあるが行動になかなかうつせない学生には国際協力を身近に感じてもらえるような話しをし、行動へと促した。
7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



出張サービスの様子①  
PHD協会の活動紹介と国際協力  
について話をしているところ。



出張サービスの様子②全体の様子



出張サービスの様子③個別相談の様子

## 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：外務省 NGO 相談員の NGO-JICA との連携について  
※出張形態：その他（協議会）
2. 出張者：坂西卓郎（公益財団法人 PHD 協会）  
竹内よし子（えひめグローバルネットワーク）  
田中一弘（特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構）
3. 実施日：2012年10月19日（金）14：00～17：00
4. 場所：広島経済大学セミナー・ハウス成風館（広島県廿日市）
5. 対象者：外務省 NGO 相談員、JICA 職員、中国・四国地方の NGO 職員

### 6. 実施報告：

平成 22 年度より「国際協力における NGO と JICA 連携」が主要議題のひとつとなり、NGO 相談員として JICA-NGO 連携の促進等を目的として出席した。今回は協議事項として「国内における NGO と JICA の連携」、特に地域連携を取り扱った。発表者としては NGO 側のコーディネーターの龍田成人氏（名古屋 NGO センター）が行った。議題としては（1）各地域（中部、中国、四国）での新しい動きについての情報共有、（2）NGO-JICA 協議会への地方の NGO ネットワークの参加促進について、（3）NGO-JICA 協議会の地方開催と地元 NGO との意見交換会の開催について、（4）今後の地域連携の議論を推進するための枠組み作りについて、（5）事例集の作成についての 5 点であった。

議題（1）に関しては NGO 相談員であるえひめグローバルネットワーク代表の竹内よし子氏が四国での NGO と JICA の協働事例を報告され、その先進的な取り組みをどのように他地域で活かすかという議論を行った。四国での先進事例の報告は全体会の議論を促進させるものであった。また地域の中小の NGO にとって JICA や外務省との距離を感じるという課題も話し合われ、各地域での JICA センターとの連携の必要性なども議論された。その橋渡し役として各県の国際協力推進員や NGO 相談員がその役を担えるのでは、という方向性も示された。地域毎に状況は様々であるが、本会議で示された NGO 相談員の役割についても、国際協力推進員の方々との連携を深めていく中で担っていく必要があると感じた。加えて中国四国地域の NGO の方々には必ずしも NGO 相談員の存在が認知されていなかったが、今回の機会は周知の良い機会となった。また本会議での内容や成果を NGO 相談員として周知していくことで国際協力活動の促進に繋げていきたい。会議終了後は懇親会が行われ、JICA-NGO の関係者が懇親を深めた。インフォーマルな場での交流は連携促進にも寄与すると思われる。

所感および効果：

(特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構より)

- ・ JICA との連携については、NGO 相談員連絡会議等においてもテーマとなっているところ、この度、NGO-JICA 協議会へ出席し、現在の NGO-JICA の連携の状況、今後の方向性について理解を深められたことは、今後の相談員業務における連携の形を検討する上で、貴重な機会になったものとする。
- ・ 当団体からは、草の根技術協力事業の実施団体としての経験を踏まえ、同事業の 10 年の振り返り分科会における検討の視点として、制度面の変化とその影響、様々な NGO のニーズへの対応方法などの点を提案したことで、当団体の専門性を活かしたインプットを行うことができたものとする。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を 3 枚添付



「平成 24 年度第 2 回 NGO-JICA 協議会」出張サービス「その他（協議会）」の様子①

NGO だけの事前会合の様子。NGO 側で協議事項や内容などのすり合わせを行った。



「平成 24 年度第 2 回 NGO-JICA 協議会」出張サービス「その他（協議会）」の様子②

本会議が始まったところ。JICA, NGO 側合わせて約 40 名が出席した。



「平成 24 年度第 2 回 NGO-JICA 協議会」出張サービス「その他（協議会）」の様子③

終了後の懇親会の様子。ほぼ全員の出席者が参加し、交流を深めた。

平成 24 年 11 月 9 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  
代表理事 竹内よし子

## NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

### 記

1. 企画名:「身近なところから食・エコを考えよう」

【形態:相談対応サービス・**講演**・セミナー・ブース】

出張者氏名:藤野 紀子

2. 依頼元／主催等団体名:公益財団法人オイスカ四国研修センター
3. 実施日時:平成 24 年 10 月 27 日(土)11 時 00 分～12 時 00 分
4. 実施場所:公益財団法人オイスカ四国研修センター(香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1)
5. 参加人数:15 名
6. 実施概要:

同センターのイベントにおいて、「国際協力の世界をのぞいてみよう」という企画で、初心者にも理解しやすい国際協力について話をしてほしいとの依頼を受け、当団体の活動紹介と「国際」・「環境」・「食」をテーマとし、「写真で学ぼう！地球の食卓」の教材を使用したワークショップを行った。

自己紹介の後、当団体の国際協力活動の紹介として、最新号の会報を元に、現地モザンビークにおける活動、公民館建設・縫製プロジェクトの概要説明、また団体本部所在地でもある松山市における国際理解教育・開発教育の活動紹介を行った。国内における国際協力活動は、まず「知ること」、「考えること」から始めて、「自分にできること」から活動を始め、行動に移すことだと伝えた。

また、「自分には何ができるのか」、「どうすれば国際協力活動を始められるのか」と考えている人は、NGO相談員制度を活用することで、自分に合った活動や国際協力NGOを見つけることができることなどを伝え、まずは気軽に相談してほしいと述べた。NGO相談員のチラシの裏面に記載されている相談員リストを紹介した。

続いて、今回のイベントの趣旨を鑑み、参加者に身近なところから「国際関係」や「食」、「環境」のことを考えるきっかけとなるよう、「写真で学ぼう！地球の食卓」の教材を使用し、4人1グループになり、4つのグループを作った後、配られた1枚の写真を見て、ディスカッション形式でワークショップを行った。ディスカッションのテーマは、①写真の中で「ゴミ」となるものをリストアップ、②「ゴミ」としてリストアップしたものを「ゴミ」にしない工夫をグループ内で協議、③自分たちの生活で「むだ」を無くす、「もったいない」の気持ちを養うにはどうすればいいかを協議、④他国の環境に配慮した生活について協議、の4つを設定した。

ディスカッションの後、参加者からは、「生活のスピードが速い国は、便利さを求めて手軽な商品が豊富にあるが、環境には負荷を与えている」、「しかし、ドイツは物は豊富でも、環境に負荷を与えない工夫をしている。日本は、他国のいいもの・いいことは取り入れるべき」、「経済と環境のバランスをとるのは難しい」など意見が挙げられた。

また、地域で国際理解教育や環境教育を行っている参加者からは、教材についての紹介や教材作成について相談があった。当方が持っている教材や特定非営利活動法人開発教育協会を紹介した。さらに、海外のボランティアに興味のある参加者もあり、現在募集中のJICAボランティアを紹介した。

以下は当日行った相談対応の内容である。

①50代男性より、国際理解教育、開発教育の教材を教えてほしいとの要望があった。特定非営利活動法人開発教育協会、特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センターを紹介し、後日、同会のURLをメールにてお伝えした。

②20代女性、60代男性より、参加者の中で海外ボランティアに興味がある方がいたので、JICAボランティアを紹介した。香川県内の募集説明会は終わったので、ホームページの紹介、JICA 四国の所在地をお伝えした。また、いきなりボランティア参加に抵抗がある場合は、NGOのスタディツアーに参加してみるものいいのではないかと伝えた。

以上



当団体の活動紹介(左)とワークショップ(右)

平成 24 年 11 月 9 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  
代表理事 竹内よし子

## NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

### 記

1. 企画名:「国際ふれあいまつり 2012」

【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名:林知美

2. 依頼元／主催等団体名:公益財団法人高知県国際交流協会、独立行政法人国際協力機構四国支部 (JICA 四国)
3. 実施日時:平成 23 年 10 月 14 日 (日) 10 時 00 分～17 時 00 分
4. 実施場所:ひろめ市場イベント会場&大橋通商店街 (高知県高知市)
5. 参加人数:(来場者数)2,000人
6. 実施概要:

「国際ふれあい広場 2012」は、公益財団法人高知県国際交流協会と JICA 四国が高知県在住の外国人と市民の交流の場を提供し、市民の国際交流に対する意識や理解を深めるとともに、国際協力・交流団体の活動を PR することなどを目的として開催している。高知県国際交流協会、JICA 四国ブース近隣に NGO 相談員デスクを設置し、NGO 相談員空白県である高知県において、来場者の質問・相談に連携しながら対応した。多様な参加者が訪れるフェスティバルだが、主に国際協力・交流活動に興味を持つ来場者の質問・相談に個別に対応することができた。国際協力 NGO への就職、フェアトレードに興味を持つ人、ボランティアの相談などさまざまな質問・相談があり、それぞれのニーズに合わせた対応を行った。以下は当日行った相談対応の内容である。

- ① 女性・NPO 関係者:高知市内でフェアトレード雑貨を販売するお店を移転させリニューアルオープンした。NGOの方や学生さんにも来てほしいので、広報協力してほしいという相談があり、当日出店しているNGO、学生団体、JICA関係者等を紹介した。
- ② 男性・高校生:現在高校3年生だが、将来国際協力NGOで働きたいと考えており、大学で学んだらよい分野や取得したらよい資格、経験しておいたらよいことについてアドバイスがほしいという相談があり、会計(簿記)や農業など自分の専門をしっかり学ぶことや地域のNGOや国際交流協会、JICAなどでボランティア・インターンできるので学生の内から団体運営に関わっておくことについてアドバイスした。また、協力隊OB、JICA四国国際協力推進員を紹介し、青年海外協力隊の活動についても説明してもらった。

- ③ 女性・高校生：高知県内の大学進学を考えており、将来国際協力NGOに就職したいと考えている。高校生の内にしておいたらよいこと、また、高知大学でのサークルやNPOの取組みについて知りたいという相談があり、高知商業高等学校生徒会のラオス支援の取組みや当日出店していた高知大学生が活動している2団体を紹介した。
- ④ 女性・主婦：フェアトレードコーヒーや貴団体が運営するカフェについて知りたいという相談があり、当団体のカフェ運営や取り扱っている四国に拠点を置く国際協力団体のフェアトレード商品等について紹介した。また、会場近くにフェアトレードカフェがあったので紹介した。
- ⑤ 女性・看護師：四国内で活動するNGOについて知りたいという相談があり、当団体の活動や四国NGOネットワークに加盟する団体、四国NGOネットワークについて紹介した。



相談ブースの様子(左)とイベント全体(右)

以上

平成 24 年 11 月 9 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  
代表理事 竹内よし子

## NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

### 記

1. 企画名：国際協力活動とアフリカ

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名：竹内よし子

2. 依頼元／主催等団体名：愛媛県立新居浜東高等学校

3. 実施日時：平成 24 年 10 月 23 日（火）15 時 40 分～16 時 30 分

4. 実施場所：愛媛県立新居浜東高等学校（愛媛県新居浜市東雲町 2 丁目 9 番 1 号）

5. 参加人数：高校 1 年生 300 名

6. 実施概要：

新居浜市内には国際協力 NGO がいないため、国際協力への理解促進に力を入れている教員から依頼を受けて企画を立てることとなった。この高校は進学校であり、大学への進学のみを考える前に国際協力に関わる大切さ、アフリカの現状、NGO で働くことなどを通して知ってもらいたいことをねらいとした。

最初に高校 3 年生約 300 名を対象に「国際協力活動とアフリカ」をテーマに講演し、モザンビークの現状と当団体の国際協力活動を事例に国際協力の必要性や自分に何ができるかについて考えてもらった。

講演後は、地域・国際研究部員との意見交換の場をつくり、ひとり一人意見や感想を発表しながら共有し、高校生ができる国際協力について話し合った。地域・国際研究部では、文化祭でフェアトレード商品の普及・促進のための展示作成や商品販売を 3 年継続して行ってきた。さらに一歩ふみだすために、高校生がかかわれるフェアトレード商品開発として、モザンビークの刺繍、布を使った小物サンプルを提示した。ペンケース、シュシュ、小物入れ等、高校生が使う実用的なもの、文化祭で販売することを前提とした商品開発について意見交換した。

また、自分たちの暮らしている地域からフェアトレードを広めていくためには広報が大切という意見が出され、フェアトレード紹介パネルや四国のフェアトレードカタログの作成、どこの誰がつくったものか、商品のストーリーが見えるようなものを作って伝えたい、という意見が出された。

この学校では、国際協力活動に熱心な先生がおられるので、先生とともに生徒が得られる「知るチャンス」「行動するチャンス」を生かして欲しいと伝えた。また、この出張サービスの後、高校生が実際に当団体の出店イベントボランティアやワークショップに参加してきたことを付しておく。



地域・国際研究部員との意見交換(左)と講演の様子(右)

以上

平成 24 年 11 月 8 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人  
横浜 NGO 連絡会  
理事長 石塚 章

NGO 相談員による出張サービス実施企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 団体名：  
（特活）横浜 NGO 連絡会
2. 出張サービス企画名：  
「よこはま国際フェスタ 2012」会場における出張サービスの実施
3. 実施日時：  
平成 24 年 10 月 20 日（土） 10 時 30 分～16 時 00 分  
同上 10 月 21 日（日） 10 時 30 分～16 時 00 分
4. 実施場所：  
象の鼻パーク （横浜市中区海岸通 1）
5. 企画の概要
  - ①企画内容：「よこはま国際フェスタ 2012」会場のメインゲート脇に NGO 相談ブースを設置して相談対応を実施する。
  - ②目的：国際協力についての幅広い相談に対応する。
  - ③対象：来場者、参加団体、参加ボランティア

## 6 集客人数または相談対応件数

### 相談対応件数

10月20日(土) 6件

10月21日(日) 13件

(参考) よこはま国際フェスタ 2012 来場者数 : 56,000人(2日間)

好天に恵まれて過去最大の来場者を得、会場は大変に盛り上がった。

## 7 所感及び効果等

「よこはま国際フェスタ 2012」(以下、フェスタ 2012)の主催者である「よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム よこはま国際フェスタ 2012 プロジェクト」は、当団体が事務局を担っている。このプラットフォームは、構成団体である JICA 横浜、横浜市、日本赤十字社神奈川県支部、横浜市国際交流協会など国際協力に関わる団体・機関が相互に連携することで地域の国際協力を推進しようとする点で、また、このプラットフォームの事務局を NGO が担っているという点に特徴がある。

今回の NGO 相談の実施については、他の構成団体の深い理解も得て、フェスタ 2012 のメインゲート横の最も目立つ場所にブースを設置した。来場者に NGO 相談の趣旨をよりよく理解してもらい、サービスを利用しただくためにボランティアの協力も得て、テントに「よくある質問」を掲示したりするなどの工夫を凝らすことで気楽に相談サービスを利用できるような雰囲気づくりにも務めた。

相談対応は、出張サービスにより定められた出張者である小俣典之が全体管理と相談対応に携わると共に、当団体の理事ら 8 名も相談員としてローテーションによりブースに配置することにより、常時 2 名以上の相談員の体制を敷き、同時にサービスの利用を希望する複数の相談者への対応や込み入った深い相談に対してじっくりと時間をかけて対応することができた。フェスタ 2012 では、TICADV をテーマの一つに取り上げたこともあり、アフリカ支援に関連した相談も多かったことは今年の特徴の一つであった。

地域最大の国際協力イベントにおいて NGO 相談を実施したことは、56,000 人の来場者や参加団体に対しての広報効果もあったものと思われる。当日配布パンフレットなどに掲載された NGO 相談についての情報や実際の相談ブースを目にしてもらうことにより、NGO 相談員制度について周知できた。広報の場としても国際協力イベントは今後、さらに活用をしていきたいと考える。



以上

平成 24 年 11 月 8 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人  
横浜 NGO 連絡会  
理事長 石塚 章

NGO 相談員による出張サービス実施企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 団体名：

(特活) 横浜 NGO 連絡会

2. 出張サービス企画名：

JICA ボランティア募集説明会における出張相談

3. 実施日時：

平成 24 年 10 月 23 日(火) 15 時 30 分～17 時 00 分

同上 19 時 00 分～21 時 00 分

4. 実施場所：

フェイスビル (千葉県船橋市本町 1 丁目 3-1)

5. 企画の概要

①企画内容：平成 24 年度募集 「体験談&説明会」における相談対応

シニア海外ボランティア： 15 時 30 分～17 時 30 分

青年海外協力隊： 19 時 00 分～21 時 00 分

②目的：JICA ボランティア以外の国際協力活動、NGO 活動、ボランティア活動などについての幅広い相談に対応する。

②対象：シニア海外ボランティア及び青年海外協力隊の参加希望者

## 6 集客人数または相談対応件数

### 相談対応件数

シニア海外ボランティア募集説明会参加者：1件

青年海外協力隊募集説明会参加者：3件

合計：4件

(参考) JICA ボランティア募集説明会参加者数

シニア海外ボランティア：40人

青年海外協力隊：53人

## 7 所感及び効果等

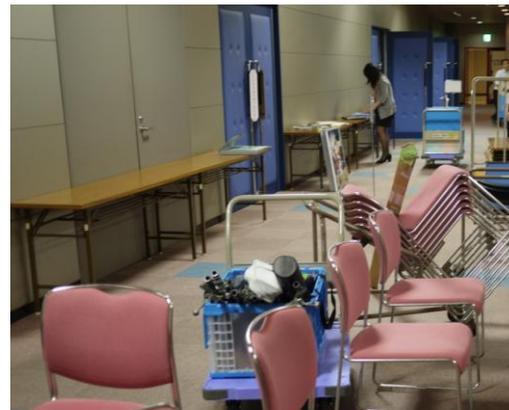
JICA ボランティア募集説明会における NGO 相談は、JICA 横浜を会場として実施される際には、ほぼ毎回、出張サービスを実施してきたが、千葉県内における募集説明会での実施は、当団体にとり初めての経験であった。

募集説明会への参加人数の絶対数は、横浜に比較すると少なく、NGO 相談の件数も多くはなかったが、熱心に相談する相談者の姿が印象的であった。

事務局側のコーディネイトも心配りが行き届いており、安心して NGO 相談を実施することができたことについて感謝したい。また、千葉県の国際協力推進員と地域における NGO の活動や国際協カイベントの運営などについて詳細な情報交換をすることができたことは、出張サービスの実施により得られた成果である。今後も積極的に各地における JICA ボランティア募集説明会における NGO 相談を実施していきたいと考える。



相談ブース



会場設営

以上

平成 24 年 11 月 8 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人  
横浜 NGO 連絡会  
理事長 石塚 章

NGO相談員による出張サービス実施企画について

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 団体名：

(特活) 横浜 NGO 連絡会

2. 出張サービス企画名：

JICA ボランティア募集説明会における出張相談

3. 実施日時：

平成 24 年 10 月 14 日(日) 10 時 30 分～12 時 30 分

同上 14 時 00 分～16 時 00 分

4. 実施場所：

JICA 横浜 (横浜市中区新港 2-3-1)

5. 企画の概要

①企画内容：平成 24 年度募集 「体験談&説明会」における相談対応

シニア海外ボランティア： 10 時 30 分～12 時 30 分

青年海外協力隊： 14 時 00 分～16 時 00 分

②目的：JICA ボランティア以外の国際協力活動、NGO 活動、ボランティア活動などについての幅広い相談に対応する。

③対象：シニア海外ボランティア及び青年海外協力隊の参加希望者

## 6 集客人数または相談対応件数

### 相談対応件数

シニア海外ボランティア募集説明会参加者：1件

青年海外協力隊募集説明会参加者：0件

合計：1件

## 7 所感及び効果等

JICA 横浜を会場とする JICA ボランティア募集説明会における NGO 相談出張サービスは、恒例的に実施し、毎回、安定的な相談件数を確保してきた経緯がある。しかしながら、今回の出張サービスに於いては、シニア海外ボランティア応募説明会では、1件のみ、青年海外協力隊応募説明会に至っては、0件という過去経験のない大変に厳しい結果となった。

この原因は、相談コーナーの設置場所を体育館の説明会会場内に併設するという過去の実施方法を変更し、体育館とはフロア一違いの JICA のセキュリティー管理ゾーン内の会議室に変更したことによると断定できる。説明会会場と相談場所の動線に問題があり、さらに、狭い別室内での相談は、NGO 相談を希望する傾向が強い JICA ボランティアへの応募を迷っていたり、NGO での活動などを含めて幅広く進路を検討中の人にとっては、相談に至るまでのハードルが非常に高いものになっていたものと思われた。

JICA 横浜では当方の日常的な連携先である市民参加協力課の大幅な人事異動が実施されたこともあり、当団体としても JICA ボランティア募集説明会の開催情報をスムーズに得られなかった。今回の説明会も過去と同様の方法が踏襲されていると疑わなかった当方としては、当日になって知ったレイアウトの大幅変更に驚いた次第である。なお、募集説明会の事務局サイドからも動線に問題があったと考えられるとの所見を聴取した。

後日、JICA 横浜市民参加協力課と当方との間で実施している月 1 回の定例会の議案に今回の問題を挙げて検討をしていただいた。今後、動線の問題を解決してより効果的な相談体制が作らえることを期待したい。同時に NGO 相談員と JICA との連携を日常的に強化することにより、より充実したサービスを市民に対して提供できるものとする。



以上

## NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 「天保山まつり」NGO相談員の情報&相談コーナー  
【形態：相談対応サービス】

2. 出張者氏名 (特活) 関西国際交流団体協議会 西 保彦

3. 依頼団体 築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会

4. 実施日時 2012年10月13日(土) 10時～17時

5. 実施場所 築港赤レンガ倉庫広場  
(大阪市港区海岸通二丁目7-23)

### 6. 実施報告

#### (1) 企画概要

①当協議会では本イベントにNGO相談員の出張サービスとして出展し、情報&相談コーナーを設置して国際交流・協力活動の情報提供と個別相談を行った。

本イベントの関係者や参加者、参加団体など今まで国際交流・協力の情報に接する機会の少なかった市民の理解を深めることを目的とした。

②「天保山まつり」は天保山・築港地区の歴史的価値・特性を再発見し、地域住民やNPO団体、地元企業などの参加を促し、まちの活性化を目的として今年度で4回目の開催となる。

実施会場はメイン会場である築港赤レンガ倉庫広場のほか、海遊館前イベント広場、港商店街、築港高野山の4つの会場にわかれており、スタンプラリーを行うことで来場客の導線を確保していた。メイン会場ではブース出展のほか、ワークショップやライブ、ストリート・ファッションショーなど、幅広い層に参加してもらえるようなプログラムを実施していた。

③ブース協力団体として本協議会を含め25団体が築港赤レンガ倉庫広場に参加した。

(2) 参加者 <ブース個別相談対応>10月13日(土) 合計8名

<天保山まつり全体>

スタッフ：約100名

来場者総数：約2,500名(昨年約3,000名)

(3) 相談内容 ①NGO/NPOへの就職について…1件

②NPO設立方法について…1件

③ボランティア活動参加について…2件

④フェアトレード情報について…2件

⑤国際イベント情報・ワン・ワールド・フェスティバルについて…2件

(4) 相談者区分 [学生]1名 [社会人]4名 [主婦]1名 [退職者]1名 [NGO関係者]1名

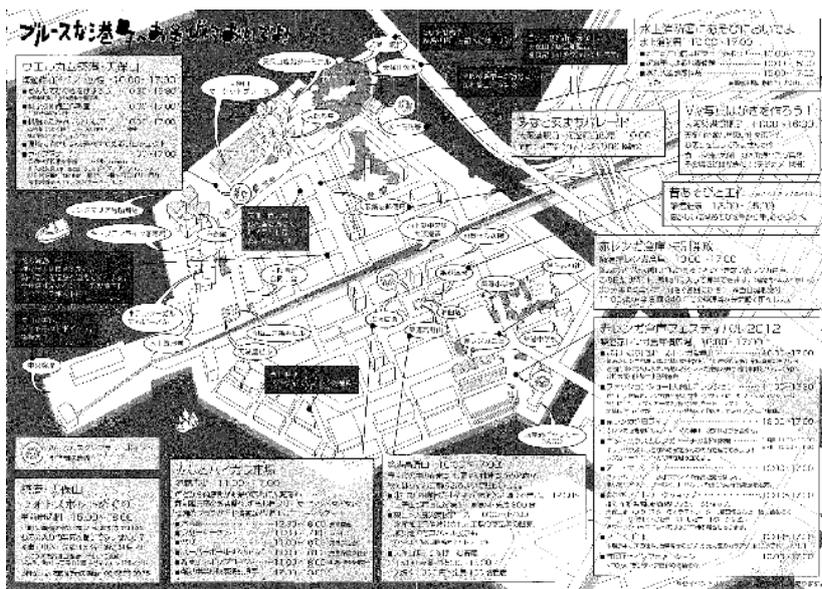
## 7. 全体的な感想

「天保山まつり」は大阪市港区の港町活性化と歴史的施設(赤レンガ倉庫)保存の意識付けを目的として、地域密着型の街ぐるみのイベントとして開催している。出展者も地元の商店街店舗から多く参加され、手作りクラフトや食品の販売をするブースが目立った。また、昨年までNPO 共同施設「piaNPO」に入居していた団体もこの地区で活動拠点を置いているためフェアトレードブースとして参加していた。地元の小学校・中学校も協力しており、子ども達、家族連れの参加が目立ったほか、ユニバーサルスタジオジャパン勤務の外国人寮が同地区に在るため、国際的なイベントの雰囲気を出していた。開演から人が途切れることなく1日中にぎわっていた。

来場者層としては、家族連れと若者が中心であり、NGO 相談員ブース来場者では国際協力に関心を持つ若者と国内イベント/フェアトレードに関心のある年配者に二分されていた。ブースには設置したパンフレットやイベントチラシが欲しいと来られる方が多く、実際に相談となるとじっくり話をするかたは少なかった。しかし、ブースを訪れた方々には必ずNGO 相談員のチラシを渡して、この様な制度があることを紹介した。

今回も NGO 相談員のブース出展だけではなく、「動く→動かす」貧困撲滅キャンペーン「スタンドアップ」もステージで実施した。ステージでは地元の小学生の協力をえて、キャンペーン宣誓文の読みあげやスタンドアップアクションに協力していただいた。来場者が一体となって国際協力を考える機会を持てたことが良かったと思われる。

昨年度参加後の課題であった、「いかに来場者に興味をもってもらい、話を聞いて頂けるのか」と言う点では同イベント総合案内パンフレットに「市民団体インフォメーション」としてNPO やボランティア活動の紹介がある旨、記述したことにより、来場者に意識付けをすることができ、ブースを訪れる人が希望する内容のチラシや情報を要求することが目立った。また国際協力イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」の情報を問い合わせる若者もあり、同イベントの認知度も向上した。



8. イベント開催時の風景



会場の様子



相談対応ブース



相談ブースと相談員



スタンドアップ実施ステージ(1)



スタンドアップ実施ステージ(2)



スタンドアップ

外務省国際協力局民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

(NGO相談員氏名) 門田 一美

## NGO相談員による出張サービス実施報告書

10月4日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

### 記

1. 企画名 : JICA ボランティア秋募集説明会

【形態 : 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 ( )】

2. 催しの概況:

実施日 2012年10月13日(土) 10:00~16:00

場 所 JICA 中部

対象者 学生、社会人、退職者など一般など 約35名

概 要 海外でのボランティア活動を目指す方々に、募集の概要、体験談の紹介、相談対応を行う JICA ボランティア説明会にブース出展した。JICA のように長期間での派遣ではなく、もう少し身近にできるボランティア、短期間で海外ボランティアしたいという問合せや、NGO スタッフになりたいがどうしたらよいかなどの質問を頂いた。

3. 実施内容:



#### ◎ ブースでの個別相談に応じた

##### ● 主な相談内容は以下のとおり。

- ・英語を生かして名古屋でボランティア活動をしたい。
- ・スタディーツアーの事例を教えてください。
- ・冬休みに被災地でボランティアをしたい。
- ・国際協力の NGO に関わるために、大学で学びたいので、今日は NGO とは何かという話を聞きに来た。
- ・JICA の長期研修は難しいが、短期(1ヶ月)で海外ボランティアをしたい。
- ・アフリカの国でボランティアの経験がある。短期でできる海外ボランティアについて知りたい。

高校生や大学生などの若い世代の方が全体の半数以上で、その中には県外から2時間以上かけて来た方もいた。他には、2年後に小学校教員を退職した後、専門性を生かして途上国の子どもたちに関わりたいという思いを持って相談に来た方もいた。

## (特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 24 年 10 月)

### (ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名 : (特活) NGO 福岡ネットワーク

企画名 : ながさき国際協力・交流フェスティバル

実施日時 : 平成 24 年 10 月 28 日 (日) 10 時 00 分~15 時 00 分

場所 : 出島交流会館 (長崎市出島町 2 - 11)

### (イ) 実施内容

当団体は会場内のブースにおいて、団体の活動や国際協力について知らせるための展示を行い、市民や NGO 関係者から寄せられる質問への対応を行った。

### (ウ) 集客人数または相談対応件数

来場者数 : 3,505 人

相談件数 : 6 件

### 所感及び効果等

今回の出張相談は、長崎の国際協力推進員の紹介により、JICA 及び青年海外協力隊 OB 会と共にブース出展を行った。ながさき国際協力・交流フェスティバルへの出展は今年で 2 度目となる。

相談ブースを設置し対応を行う中で、国際協力活動を行っている学生団体の出展があったこともあり、大学生が将来的に国際協力を仕事にする/関わっていくためにはどうすればいいか・その関わり方にはどのようなものがあるかという相談が多くあった。そのため、5 時間というイベントにしては比較的短い時間ではあったが、一人ひとりの将来に関わることであるため、時間をかけ丁寧な対応に努めた。

所感としては、JICA 及び青年海外協力隊 OB 会と共同のブースであったことから、協力隊を考え相談に来られる方が多かった。参加者層としてはスタンプラリーも同時に実施していたことから子どもの参加も多く、イベントに遊びに来るといった感覚の参加者が多いように感じた。効果としては今年で 2 度目の参加となることから、当団体の認知度は少しずつではあるが高まってきているように感じた。相談に対応する中で「長崎ではなかなか知ることが出来ない NGO の情報や関わり方を知ることが出来、来てよかった」「もっと多くの方の相談にのってほしい」という声を聞いたことから、本イベントに関わらず、更に多くの場面に於いて相談対応を実施していく必要性を感じた出来事であった。



▲相談対応の様子



▲会場の様子

平成 24 年 11 月 7 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

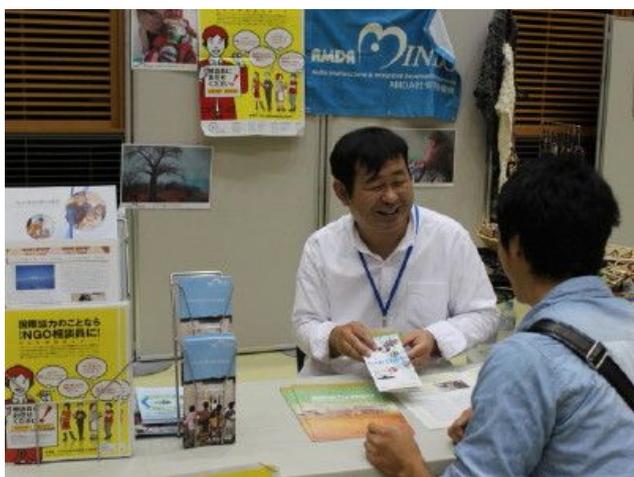
NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名 : 第 9 回ハローほうき国際交流フェスティバル
2. 形態 : 相談対応サービス
3. 主催団体名 : ハローほうき国際交流連絡会
4. 実施場所 : 米子コンベンションセンター (米子市末広町)
5. 実施日時 : 平成 24 年 10 月 21 日 (日) 10 時 00 分 - 16 時 00 分
6. 出張者氏名 : 山上正道
7. 実施内容 :  
平成 24 年 10 月 21 日(日)に 米子コンベンションセンター多目的ホールにて開催された国際交流イベント (ハローほうき国際交流連絡会の主催) に NGO 相談員ブースを出展し、相談業務にあたった。本国際交流イベントは第 9 回目を迎え、鳥取県内の団体が中心に 20 の国際交流・協力団体がブースを出展した。今年の来場者は 1,000 名 (主催者発表) で、NGO 相談員コーナーには 6 名の相談者が訪れ、13 件の相談に対応ができた。
8. 所感・効果  
本イベントは国際交流を趣旨としたイベントで、団体同士の交流も多々ありその目的は達成されていると感じた。

相談件数は少なかったが。相談内容についてはキャリアパスや他県のイベント、助成金など多岐にわたった。相談コーナーを訪れた方は、インターネットなどとは異なり対話式で情報を得ることができてよかったとコメントもいただいた。

今回3度目の出展であったが、NGO相談員制度について知っているという回答した来場者はいなかった。国際協力の裾野を広げるという点においても、さらなる周知に努める必要性を感じた。



2012年10月30日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人ソムニード  
NGO相談員 宮下和佳

### NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたので報告致します。

#### 記

1. 企画名：平成24年度JICAボランティア秋募集「体験談&説明会」における相談デスクの設置 【形態：相談対応サービス】
2. 出張者氏名：宮下 和佳
3. 依頼元／主催等団体名：JICA 中部
4. 実施日時：平成24年10月17日（水）18時00分～20時30分
5. 実施場所：県民ふれあい福寿会館 301 中会議室（岐阜県岐阜市藪田南5丁目14-53）

6. 参加人数：36名
7. 相談件数：4件

#### 8. 企画の概要

- (1) 企画内容：JICA ボランティア（青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア）への参加を希望する人、国際協力ボランティアに興味・関心のある人を対象とした、「JICA ボランティア体験談&説明会」に相談デスクを設置し、相談者からの質問・相談に応じる。
- (2) 目的：
  - ①JICA ボランティア以外の国際協力活動を中心に、地域や国内外で参加できる多様な国際協力活動への参加方法について周知する。
  - ②NGO 相談員制度について周知する。
- (3) 参加対象者：JICA ボランティアをはじめとする国際協力ボランティアに興味・関心を持つ学生、社会人、退職者など

#### 9. 実施内容：相談員ブースにて、NGOに関する質問・相談に応じた。

- ・（自治体職員から）JICA ボランティア以外に、短期間で参加できる海外でのボランティア活動機会について
- ・（主婦から）岐阜県および近隣で活動している国際協力 NGO について
- ・（学生から）NGO/NPO 活動への参加方法・情報収集方法について
- ・（会社員から）国際協力分野でのキャリア形成について

10. 所感及び効果：来場者に対して相談ブースの存在を周知したことで、春募集の際より（参加人数あたりの）相談件数を増加させることができた。特に「（情報収集を兼ねて）気軽に参加できる国際協力活動」「短期間でも参加できる活動」について紹介できたことで、相談者からは「長期の休職や退職を要する JICA ボランティア以外の選択肢を知ることができてとても良かった」というコメントを頂いた。



## 2012（平成24）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 田中十紀恵

### 1. 企画名：2012 秋スタディツアー説明会～行ってみよう！もうひとつの旅～

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成24（2012）年10月20日（土）

13時30分～17時00分

場所：キャンパスプラザ京都

出張者氏名：田中十紀恵

### 2. 実施内容：

年末年始および春季にスタディツアーを実施する予定の NGO が集まり、ツアーへの参加を検討している人を対象に情報提供をおこなった。第1部「スタディツアー・・・どんな団体が？ どこへ？ 何を学べる？」では、スタディツアーの基礎知識として、その特徴や意義を解説し、出展団体が提供するツアーの紹介をおこなった。第2部「直接聞いてみよう～多彩な NGO のスタディツアー」では、ツアー実施予定の NGO がブースを出展し、参加者はブースをまわってツアー内容や活動内容について聞いた。当会は、主にツアーへの参加を検討している学生からの相談に対応した。



### 3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：約35名、ブース出展：11団体

### 4. 所感及び効果等：

スタディツアーへの参加を検討している層を対象とした企画ではあったが、スタディツアーの選択に関する相談だけではなく、NGO や国際協力に関する一般的な相談も寄せられた。当会は、参加者の関心に耳を傾け、客観的な立場から最適な NGO やツアーの紹介をおこなった。

NGO 相談員が参加した効果として、参加者にとっては、スタディツアーそのものだけでなく、NGO 活動や国際協力全般に関する理解を深める機会となった。当会にとっては、スタディツアーという切り口での NGO の情報収集ができ、相談対応の幅を広げることができたと感じる。さらに、NGO 相談員制度の詳細や具体的な活用方法についても相談が寄せられ、当該制度の周知にもつながった。



以上

2012年10月31日

## NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

1. 企画名： JICA ボランティア説明会（シニア・青年）  
NGO 相談員 情報&相談コーナー
2. 開催日時： 10月 25 日 15時～ 21時
3. 主催者： NGO 相談員、JICA 地球ひろば 共催
4. 場 所： 大宮ソニックシティホール4階（埼玉県さいたま市大宮区）
5. 出張者： （正・副・その他）  
（特活）国際協力 NGO センター（渡辺李依）  
（特活）難民を助ける会（吉澤有紀）
6. 参加者： 約 60 名（うち個別相談 5 名）

### 7. 実施内容：

JICA のシニア、及び青年海外協力隊の説明会に連動して、会場前ロビーにて、相談員団体 2 団体による合同 NGO 相談会を開催した。対応ブースには、国際協力に関する資料を展示し、自由に情報収集もしていただけるようにした。

相談会会場に訪れた約 60 名のうち、5 名に個別相談を実施。それぞれ 10～20 分ほどにわたって対応した。

協力隊説明会の会場にて、運営を担当する公益社団法人青年海外協力協会のご協力により、相談員制度や相談会をアナウンスしていただいた。

【相談者の属性】 学生 2 名：社会人 3 名 男性 3 名：女性 2 名

#### 【主な相談内容】

- ・ 国内でできるボランティアには、どのようなものがあるか
- ・ ボランティア募集はどのように探したらよいか
- ・ 経理を専門としているが、協力隊の職種には含まれていない。海外で働きたいが、NGO の海外事務所では経理の知識を活かすことはできるか
- ・ NGO では採用募集はどのようなタイミングで行っているのか
- ・ NGO とは何か
- ・ 企業に内定をいただいたが、海外で働くことに興味がある。企業に就職すべきか、海外で働く機会を見つけるべきか。働きながら海外での活動に携わることはできるか
- ・ 教員として海外で働きたいが、NGO と協力隊はどちらが適しているのか

## 8. 所感：

- ・ 今回対応した方々の多くが、NGO についてあまり知らず、海外で働きたいがその方法は協力隊しか知らない、という方々だった。協力隊以外にも海外の現場に出る方法があること、また、日本の企業で働きながらでもボランティアやスタディツアーなど国際協力への参加方法があることを紹介することで、国際協力の担い手を広げる機会になった。
- ・ 参加にあたり、JICA 地球ひろば、及び当日の運営担当であった青年海外協力協会のご担当者と密に情報共有をしていたことで、相談員の意味をご理解いただき、ブース設置や会場内での案内など、きめ細かなご対応をしていただいた。限られた時間で効率よく相談業務を行うためにも、今後も各関係者との情報共有の重要性を感じた。

## 9. 改善点など：

- ・ 協力隊の個別相談ブースと並んでいたため、NGO 相談員ブースでは何が聞けるのか、“協力隊以外で国際協力の現場で働く方法をご紹介します”など、具体的に掲示するとより相談しやすい環境が作れたのではないかと思う。
- ・ シニア海外ボランティアの説明会の参加者は、協力隊で海外に行くという目的が明確にある方が多いため、それ以外の選択肢にはあまり関心がなく、相談者も少なかった。今後の相談員の参加には、検討が必要である。

### 【相談対応の様子】

